

NEWSLETTER FROM
TICON GROUP

FORWARD

JANUARY-MARCH 2014 | ISSUE 1

TICON 従業員が第2回
“社会に愛を贈る”
プロジェクトに参加

2013年のタイへの
外国直接投資実績

レムチャバン港に近い最
新の配送センター・

TPARK
レムチャバン2の詳細

実りある利益のための
投資戦略



タイの産業界の成長
に貢献するTICON



Mr. Virapan Pulges
Managing Director
TICON Industrial Connection Public
Company Limited

Message from the Managing Director

読者の皆さん、こんにちは。Forward誌の初号で、皆さんにご挨拶できることを大変嬉しく思います。本誌はTICONグループ傘下の会社のニュースや最新情報などを併せた新しいコミュニケーション誌です。また、本誌は製造業や物流業、金融や投資などに関する役立ち情報なども提供いたします。本誌が全ての読者の皆さんのお役に立つと信じております。

2014年は政治的緊張と共に始まり、経済と投資は影響を受けましたが、私自身は、アセアン地域の中心に位置していることによる競争力、整っているインフラ、物流網、良質な労働力などによるタイの潜在能力を信じています。問題は間もなく解決し、それによって全ての事業は目標に向かって前進し、タイ経済は再びいつもの成長を享受できるであろうとの強い希望を持っています。

TICONグループを代表して、既存及び今後の新規プロジェクトで工場と倉庫の供給を増やす戦略を実行することで当社事業の拡張を継続し、更に2015年のアセアン経済共同体(AEC)発足に備えてタイ国内やアセアンでの新規投資の機会を常に模索して行くことをお約束します。また、当社はREIT(不動産投資トラスト)を設立することにしました。この詳細は本年第2四半期に明らかにします。

最後に、TICONグループは障害を乗り越え、共に繁栄成長出来るよう、全ての顧客とパートナーを組んで前進する所存であることをお約束します。また、当社の事業展開に対する信頼、継続的な成長と一貫した配当を提供する可能性に対する信頼をお寄せいただいた株主及び投資家の皆様に感謝いたします。

ISSUE 1
JANUARY-MARCH 2014

CONTENTS

3 BRIGHTEN THE FUTURE

TICON 従業員が第2回“社会に愛を贈る”プロジェクトに参加

4 FACTORY SPOTLIGHT

タイの産業界の成長に貢献するTICON

6 WAREHOUSE SPOTLIGHT

レムチャバン港に近い最新の配送センター・TPARKレムチャバン2の詳細

8 JAPAN CORNER

2013年のタイへの外国直接投資実績

10 EVENTS NEWS

11 NEW TENANTS

12 PROPERTY HIGHLIGHT

13 INVESTOR'S FOCUS

実りある利益のための投資戦略

14 COFFEE TIME WITH GURUS

近代的通商 ビジネスにおける 配送 システム
(Primary Distribution System)

15 TAKE A BREAK

レストラン ロムチョーイ(そよ風)

FORWARD

Consultants: Mr. Virapan Pulges, Mr. Tan Jitapuntkul
Executive Editor (English): Ms. Hataikan Duttadintorn, Mr. Ruairidh Watters
Executive Editor (Japanese): Mr. Takashi Fuse
Executive Editor / Art & Design Director: Ms. Hataikan Duttadintorn
Editorial Staff: Mr. Thanatdech Sirivoranan

TICON TPARK

Published on Behalf of: **TICON GROUP**

175 Sathorn City Tower, 13th Floor, Suite 1308, South Sathorn Road, Sathorn, Bangkok 10120 Thailand
Tel: +66 (0) 2679 6565 Fax: +66 (0) 2679 6569 Email: logistics@ticon.co.th www.ticon.co.th

Follow us on Twitter@TPARK_Live

TICON

従業員が第2回“社会に愛を贈る”プロジェクトに参加



BRIGHTEN THE FUTURE (明るい未来) は、持続的な発展につながる短期及び長期の改善活動を促す、社会と環境に対する責任に関わるTICONグループの様々な活動に焦点を当てる新しいコラムです。



TICONが行っているいろいろなプロジェクトのひとつが社会と恵まれない人々に微笑みと幸せを送る、2年連続して実行されている“TICON より愛を贈る”プロジェクトです。サムートプラカン県シージャンターラーム寺での公共トイレの建設にTICON従業員が参加し、またチャチェンサオ県バンパコンの障害者施設にお金や必需品を寄付しました。

TICONのヴィラパン・ブルグス社長は次のように述べています。「“TICON より愛を贈る”プロジェクトは、社会と環境の改善に貢献する活動に関わりたいというTICON社員のグループによって始まりました。TICON社自体も社会の一員として、社会と環境保全のための活動を支援していくとの方針を

持っており、社会の生活レベルを改善することの重要性を認識しています。有志の社員の真摯な思いを受けて活動が潤滑に実施されるよう、これを支援していくこととなりました。」

“TICON より愛を贈る”プロジェクトは、生活の必需品を必要とする恵まれない人々を援助することに焦点を当てており、2013年11月には50名以上のTICONとTPARKのボランティアがサムートプラカン県のシージャンターラーム寺に公衆トイレ10室を設置しました。更に、TICONとTPARKの社員がバンパコン障害者施設を訪問し、この施設に居住する人々に寄付金と生活必需品を贈りました。■



ボランティアの一人としてこの活動に参加したサウィティさんはその経験を次のように述べています。

「恵まれない人々を思いやり援助する(それが金銭的な援助であれ肉体的な奉仕であれ)ことによって他者を助け良き行いをする。このことは我々与える側にも幸せをもたらすということに気づかされました。」



社長としての長年の経験に基づいてタイ産業の概観をお話し下さい。

「タイは様々な面で可能性を有する国です。過去何年にも亘って積み上げられてきたインフラ、良質な労働力、外国投資を奨励する政府の方針などにより、タイは様々な産業の生産拠点になりました。ここ数年、タイは電子産業及び自動車産業で世界を代表する輸出国にランクインしています。多くの世界的自動車メーカーがタイに生産と輸出拠点を置き、それが関連サービスを提供する会社をタイに引きつけています。今やタイは自動車及び自動車部品の重要生産拠点に登りつめたと言えます。」

タイの産業界の成長 に貢献するTICON

タイコン・インダストリアル・コネクション株式会社は20年以上前に設立され、それ以来、タイの製造業に貢献してきました。2013年のNESDB(国家経済社会開発委員会)の報告書は、タイ経済の発展に重要な役割を果たしたのは、TICONの主要顧客である中程度から高度のテクノロジーを駆使する自動車産業と電子業種であったと述べています。この機会に、我々FORWARD誌のチームは、過去20年に亘ってTICONに成功をもたらしたヴィラパン・プルゲス社長にお話を伺いました。



「品質は常にTICONの最優先事項で、これは顧客の満足度に反映されます。多くの顧客は継続して契約を更新していますし、TICONは即入居可能な工場を探している会社から頻繁に合わせを受けています。」

「TICONはバンパイン工業団地で顧客サービスを開始しました。面積5,150平米の工場でした。顧客が迅速に事業を開始することができるように便宜を図るというTICONのビジネスモデルに基づいて、我々は製造業にとって戦略的な場所に様々なサイズの即使用可能な工場(Ready Built Factory)を提供してきました。爾来TICONは飛躍的な成長を遂げ、現在では15ヵ所の工業団地で、合計100万平米の工場を有し、顧客数は400社以上、うち95%が外国企業です。」

TICONが目指す顧客グループはどのような産業ですか？

「自動車産業と電子産業が当社の主要顧客であり、この二つの産業の多国籍企業がタイをその生産拠点として選択している方

向性に沿っています。タイは世界第9位、東南アジア第1位の自動車生産国です。しかし、TICONの顧客には、食品産業や農業機械を含む様々な他の産業グループも入っており、当社の多様な立地条件が競争力の改善に貢献しています。」

またヴィラバン社長は工場の品質について次のように話してくれました。「品質は常にTICONの最優先事項で、これは顧客の満足度に反映されます。多くの顧客は継続して契約を更新していますし、TICONは即入居可能な工場を探している会社から頻繁に合わせを受けています。長年の経験に基づいて当社は技術者と建設チームを有し、工場の品質を担保しています。また、当社の建設チームは、特殊なタイプの工場を必要とする顧客のニーズに応えるため、注文工場(Built-To-Suit)を提供することも可能です。」

TICONのもう一つの特徴は顧客に対するOne Stop Serviceの提供です。プロを揃え、様々な分野の相談に対応しています。例えば、工業団地公社(IEAT)への許可申請、外国人の労働許可証手配、投資奨励委員会(BOI)に対する税制恩典申請、種々の工事を請け負う業者への取次、ニーズに合わせるための建物の調整や改装などについての相談、事業運営に際しての種々の公共サービスへの取次を行なう等々のサービスです。

最後にヴィラバン社長は、顧客ベースを広げるため、新規プロジェクトや製品を立ち上げることによってさらに成長することが期待できることを追加で述べました。その詳しい内容は然るべきタイミングで明らかになるでしょう。お知りになりたい方は、Forward誌の次号をご覧ください。■





レムチャバン港に近い 最新の配送センター・ TPARKレムチャバン2の詳細

TICONが発行する“FORWARD”誌の2014年ウマ年最初の本号で、新コラム“スポットライトを浴びる倉庫”をお届けします。このコラムでは当社の最新の動きを提供します。本号では、輸出入産業を含むいくつかの産業から重要と見られている場所に立地しており、それがゆえに関係者の注目を浴びている新規大型配送センターをご紹介します。TPARK というブランドは、その名のついたプロジェクトが国際的な水準を満たしていることを保証していることを意味します。つまり、TPARKレムチャバン2は、あらゆるタイプの顧客の物流面の要求に応えるに足る効率的な設備を持つ大型配送センターを提供することを保証しています。

Forward誌のチームは、優秀なキャリアウーマンでありTPARKの販売部門のキーパーソンである ピヤナート・シリパーヌーさん(愛称「チェリー」さん)に個人的な歓迎を受け、彼女の案内で新倉庫を見学しました。

我々のチームは早朝バンコクを出発、約1時間半でTPARK レムチャバン2 に到着し、チェリーさんの出迎えを受けました。「こんにちは。チェリーさん」「こんにちは。TPARK レムチャバン2へようこそ。こちらへの道のりは如何でしたか」という風に、チェリーさん

の歓迎ぶりは大変にこやかでした。そして「このプロジェクトへの入口は2ヶ所あります」と付け加えました。表側入口は国道7号線から入る(工事中)。もうひとつは我々が現在いる場所、即ち国道7号線からソイ・ワット・ラッタナラム(ボヒン)経由の入口です。



Management Team of TPARK Laemchabang 2





(from right) **Ms. Piyanath Sritapanu**, Head of the TPARK Sales Department, TPARK and **Ms. Oracha Suriyasak**, the Property Manager, TPARK Laemchabang 2

休憩の後、チェリーさん自身が車でプロジェクトの案内をしてくれました。「TPARKレムチャバン2の総面積は500ライ(80万㎡)、そのうち第1フェーズは開発が完了し、多数の顧客が操業を開始しています。我々は次のフェーズも引き続き開発中で、顧客の要望に応じてフリーゾーンも提供することになっています」とのこと。

TPARKは即時使用な倉庫(いわゆる Ready-Built Warehouses)しか提供しないのですかと質問に対し、チェリーさんは「TPARKは様々な形態の倉庫の開発に豊富な経験を有していますので、高品質の即時使用可能な倉庫に加えて、例えば冷凍倉庫、危険物用倉庫、Cross-Dock 形式の作業を行なうのにふさわしい倉庫などの注文倉庫(Built-to-Suit)を提供することもできます」と回答しました。

TPARKレムチャバン2の特色は何でしょうかとの質問に対し、チェリーさんは「このプロジェクトの最大の特徴はレムチャバン港及びタイ東部の様々な主要工業団地に近いという戦略的な場所に位置しており、従って様々な産業の配送センターとして使うのに適しているということが挙げられます。加えてハイウェイに近く、製品の輸送や配送にも便利です」との答えでした。ターゲットとしているのはどのような産業ですかとの質問には「様々な顧客がこのプロジェクトに興

味を示していますが、その多くはこの近辺の工業団地に工場を構えている自動車産業とエレクトロニクス産業関連の生産活動を支援する物流会社及び輸出入会社です」との答えでした。

かなりの時間話を続けて喉も渇いてきましたので、冷たい飲み物をとるためチェリーさんは我々をプロジェクトの入り口にある顧客サービスセンターへ案内してくれました。そこで、このプロジェクトの管理をしているオラチャ・スリヤサック(カイ)さんと会うことができました。この機会を利用して、Forward誌のチームはカイさんから仕事の責任範囲などについて話を聞くことにしました。

「こんにちは。私はTPARKレムチャバン2でプロジェクト管理をしています。ここは最近操業を開始した全く新しいプロジェクトですが、チームのメンバーは全員、管理効率を上げるためにTPARKの研修を受けたプロです。チームのメンバーは現場に常駐し、顧客に対するサービスを提供するとともに、円滑な操業ができるよう直ちに援助する態勢を整えています。さらに、フリーゾーン区域内の顧客に対しては、チームのメンバーを税関担当として指名し、フリーゾーンにおける税関関係業務を支援しながら様々な顧客のための調整を行っています。」との回答でした。つまり、TPARKの顧客は、顧客になる前

プロジェクト情報

プロジェクトの面積：500ライ
即時賃貸可能な倉庫面積：
230,000㎡
倉庫サイズ：1,500 – 22,500㎡

TPARKレムチャバンからの距離

バンコク 85.5 km.

空港

Suvarnabhumi
International Airport 97 km.

港

バンコク港) 104 km.
レムチャバン港 9 km.

国内コンテナ基地

ラカバン 101 km.

工業団地

アマタナコン 47 km.
アマタシティ 33 km.
アジア 65.8 km.
バンチャン 103 km.
バンブリー 83 km.
バンブー 97 km.
ヘマラート・チョンブリ 23 km.
イーステンシーボード(ラヨン) 25 km.
ジェモポリス 106 km.
レムチャバン 5 km.
パデン 62 km.
ピントン1 6 km.
ピントン2 10 km.
ピントン3 14 km.
ウェルグロウ 62.5 km.
マブタブット 58.5 km.
RIL 59.5 km.

工業団地

サイアム・イースタン 31.5 km.
サハバット・グループ 5.9 km.

でもなった後でも、緊密なケアが受けられることが約束されているということになります。多くの顧客がTPARKと契約を締結し、TPARKが大きく成長することは決して驚くことではありません。

Forward誌チームはTPARKレムチャバン2 プロジェクトを案内していただいたチェリーさんとカイさんに感謝の意を表したいと思います。次号でまた皆様とお会いいたします。■



Mr. Takashi Fuse
Advisor
TICON Logistics Park Co., Ltd.

2013年のタイへの外国直接投資実績

2013年の外国直接投資実績がBOIから発表されました。下表通り、認可ベース（Applications Approved）では、投資総額は4,789億2,700万バーツで、前年（5,489億5,400万バーツ）比12.8%減少しました。

日本からの投資額は2,904億9,100万バーツで、前年（3,484億3,000万バーツ）比16.7%減少しました。減少幅は全体のそれよりも大きくなっています。

2013年の投資額が2012年のそれを下回った背景には、2011年に発生した洪水からの復興投資が2012年に集中し、このため投資額が異常に大きくなったという特殊な事情があったことによります。

外国投資総額に占める日本のシェアは60.6%で、前年の63.4%を下回りましたが、依然としてトップの位置を維持しています。2位以下は下表の通りですが、2位の香港でも投資額は約386億バーツで、日本の13%に過ぎません。

投資奨励恩典を受けるにはBOIに申請書を提出し、BOIが奨励事業に該当するか否かの審査を行うことはご承知の通りです。申請案件の多くは奨励事業として認可されますので、申請ベースの数字はいずれ認可ベースの数字に反映されます。つまり、申請ベースの数字は認可実績を予測する際の参考指標ということになります。

2013年の申請総額は5,247億6,800万バーツ

外国投資実績 (認可ベース)

(単位：100万バーツ)

	2012	2013	増減
外国投資総額	548,954	478,927	-12.8%
日本 (シェア)	348,430 63.4%	290,491 60.6%	-16.7%
香港	12,864	38,610	+200%
オランダ	17,971	33,147	+84.4%
マレーシア	7,739	21,407	+176.6%
シンガポール	19,418	20,039	+3.2%
アメリカ	17,890	9,400	-47.5%
台湾	11,711	7,484	-36.1%

*Statistics of BOI

で、前年から19.1%減少しています。日本の申請額は2,828億4,800万バーツで、前年から24.4%と大きく減少しました。この背景には、上記認可ベースの項で説明しましたように、2012年の数字が異常に大きかったという特殊要因があったからと見ています。

多くの国の申請額が前年を下回っていますが、そんな中で注目すべきは中国で、申請額425億バーツは前年（128億バーツ）の3.3倍です。また、申請件数は45件でしたので1件当たりの申請額は平均10億バーツ弱ということになります。2012年の件数は44件で、1件当たりの申請額は平均

3,000万バーツ程度でしたから、2013では大型案件の申請が多かったということになります。いずれこれらの申請案件は認可されると考えられますので、2014年の中国からの投資実績はかなり増加するだろうと見ています。

では2014年の外国投資がどうなるか。私見ですが、主として次のような理由で2013年の実績をかなり下回るのは確実と見ています。

1. 上記の申請ベースで明らかのように、申請件数が減少している。
2. 人件費上昇、労働力不足問題が解消されていない。これを嫌って製造工程の一部或いは全

一方、申請ベース(Net Applications) の実績は下表のようになっています。

外国投資実績(申請ベース)

(単位: 100万バーツ)

外国投資総額	2012 647,974	2013 524,768	増減 -19.1%
日本 (シェア)	373,985 57.7%	282,848 53.8%	-24.4%
ケイマン諸島	18,883	49,088	+160%
中国	12,829	42,530	+231%
マレーシア	20,638	29,190	+41.4%
シンガポール	27,084	22,781	-15.8%
香港	52,678	20,181	-61.6%
アメリカ	24,705	11,621	-53%

*Statistics of BOI

あります。もし整えられていない場合、整うまで申請期限を延長するのか。こうしたことの先行きが全く見えません。小型案件はBOI事務局限りの審査で認可されますが、小型案件を積み重ねただけでは昨年のレベルを超えることは無理です。

2月2日に行われた選挙では、全国93,952カ所の投票所うち10,283カ所(11%)で、反政府デモ隊の妨害で投票が実行されませんでした。政府はこれらの投票所でも投票を実施すると言っていますが、それがいつかは不明です。また、選挙結果は全投票所での投票が完了するまでは発表しないとも言っています。ということは現在の選挙管理内閣のあとの新政権の発足がいつになるのか見当がつかず、行政機関としての政府は存在しないという政治空白状態が続くことになります。こうなりますと政府認可の遅れによる民間投資や公共投資の減少は当然経済成長にも影響を与えることになります。あるシンクタンクは昨年予測した5%の2014年経済成長率を3-4%に下方修正しました。

タイの周辺国は外資を誘致するための政策を打ち出し、インフラも整備しつつあります。昨年JBIC(国際協力銀行)が実施した日本企業を対象としたアンケート調査によれば、今後3年程度の中期的に有望な投資先としてインドネシア(1位)とインド(2位)が上げられ、タイは3位でした。10年程度の長期的な有望投資先としてはインド、中国、インドネシアが上位3カ国で、タイは5位でした。

アセアン諸国の中でタイが外資誘致に成功している要因はいくつもありますが、そのひとつが政治の安定です。しかし、現在の政治情勢は到底安定とはいえません。早く政治を安定させ、外資が魅力を感じる新しい投資策を決定することが焦眉の急です。街頭でお祭り騒ぎをしながら政治ゲームをしている時間はないはずです。■

部をタイから周辺国に移す会社が出ており、タイの投資事情が改善されないとこの傾向は今後も続くであろう。

3. 投資額2億バーツ以上の案件は首相が委員長のBOI本委員会で審議されるが、昨年10月で任期の終わった委員の後任が指名されていないため、大型案件を審議できる態勢にない。

4. 最大の問題は政治不安。ジェットロによれば、ジェットロへの投資相談や訪問者は1月に入って大幅に減少しているとのこと。Ticonでも工場・倉庫の見学や契約締結を延期するケースが徐々に出てきている。

タイの経済の牽引車は輸出と外国投資で、当分これは変わらないであろう。言うまでもなく、輸出は輸出先の経済情勢の影響を受けます。タイの最大輸出先は中国、米国、日本で、この3カ国向けが輸出総額の約1/3を占めています。また、ヨーロッパやアセアン諸国もタイの重要な輸出先です。商業省の発表によれば、2013年の輸出額は2,285億2,980万ドルで前年比0.3%減でしたが、ほぼ前年並みを維持しました。商業省は、主要輸出先の経済回復が予測されるとの見通しの下、2014年の輸出目標を2013年比5%増と設定しました。

それではもうひとつの牽引車である外国投資は



どうか。現在の反政府デモとそれによる政府の機能停止が外国直接投資に影響を及ぼすことは必至です。在タイ日本人ビジネスマンの中には「早く解決して政治情勢を安定させないと日本からの投資は確実に減少する」という人たちが出てきています。

上述の通り、BOI本委員会の後任メンバーが決まっていないため、大型投資案件の審査が止まっています。報道によれば、サイアムセメント社は90億バーツの投資案件を申請しているが、いつ結論が出るか分からないとのこと。また、外資による代表的な大型案件は第2次エコカー生産プロジェクトで、その申請締切は3月末ですが、申請を受け付ける態勢が整えられているのかという疑問が

TPARKバンナー、日本からの視察団を受け入れ



山形県企業振興公社の視察団がTICON Logistics Park (TPARK)のTPARKバンナ倉庫団地を訪問しました。視察団は、面積520ライの土地で高品質なレンタル倉庫(RBW)を提供する世界クラスの物流団地と、チョンブリ県アマタコン工業団地のTICON Industrial Connection社のレンタル工場を見学しました。視察の目的は、輸出入ハブとしてのタイの可能性、タイにおける日系企業の事業進出機会に関する調査でした。

写真：山形県企業振興公社視察団とTICON Logistics Park (TPARK) 日本企業担当マネージャー堀江茂行(前列右端) ■

不動産ファンドTGROWTHの初取引



TICON Industrial Connection 株式会社のウィラバン・プルグス社長、Siam Commercial 銀行の企業融資責任者アーティット・ナンタウィタヤ副頭取、SCB Asset Management社のチョーティカー・サワナーノン社長、CIMB タイ銀行の企業向け金融及び資本市場担当のシティチャイ・マハーコン取締役及びAsia Plus Securities社のヨーートルディー・サンタディクン資本市場担当上級副社長らが、タイ証券取引所におけるTICON industrial Growth借地不動産ファンド(略称: TGROWTH)の初取引に参加しました。証券取引所上場部門のチャニット・チャーンチャイナロン副社長及び上場担当のパウィーナ・シーポートーン部長も同席して祝意を表しました。■



2013年の事業拡大計画の一環として、Asia Industrial Estate Suvarnabhumi (AIES)の土地100ライを購入

TICON Industrial Connection社は最近、Asia Industrial Estate社と、Asia Industrial Estate Suvarnabhumi (AIES)の土地100ライの購入契約を締結しました。購入した土地には、2013年の事業拡張計画の一環として、12億6,000万バーツを投じ、合計6万㎡の高品質の即時入居可能な(Ready-Built)レンタル工場を建設します。第1期分の2万㎡は2014年9月に完成予定です。

写真：Asia Industrial Estate社のパウィニー・カトウ顧客サービス部長(右端)とTICONのソムサック・チャイヤポン本部長(左端)が見守る中、Asia Industrial Estateのパクボン・タナビパット本部長(中央右)と土地売買契約書を交換するTICON Industrial Connectionウィラバン・プルグス社長(中央左) ■



バンブー自然教育センターでのマングローブ植林

TICON Industrial Connection社のウィラバン・プルグス社長(写真右)、TICON Logistics Park社のパタン・ソムブラナン本部長(写真左)は最近、サムートプラカン県のバンブー自然教育センターで、両社の社員とともに2年目を迎えた「マングローブの森を守る」プロジェクトのマングローブ植林に参加しました。この活動はTICONグループのCSR(企業の社会的責任)プログラムの一部で、毎年行われます。■

2年目を迎えるTICONグループによる「愛の分かち合い」



TICON Industrial Connection社長のウィラバン・プルグス(中央)率いるTICONグループは最近、TICONやTPARKの有志とともに2年目を迎えた社会貢献活動「TICONグループによる愛の分かち合い」に参加しました。参加した有志はサムートプラカン県のシーチャンタラム寺での洗面所設置への援助やバンパコン障害者ホームへの金銭寄付などを行いました。■



Enshu Molding Products (Thailand) Co., Ltd.

エンシュウ・モールドディング・プロダクツ(タイランド)株式会社は、シートベルト部品、スプリング、自動車部品などの製造会社である。生産工程改善及びビジネス拡大のため、アマタナコン工業団地にあるTICON工場(面積2,700㎡)を賃借した。



Thai Murakami Co., Ltd.

タイ・ムラカミ株式会社は日本の送風機、工場自動化システム、ロボットシステムなどを製造し有名企業に納入している。同社は顧客の要求を満たすため生産拡大を行っており、昨年末、ヘマラート・チョンブリ工業団地にあるTICON工場(面積1,800㎡)を賃借し、今年の7月に操業を開始する。



Global Piping Solutions Limited (GPS)

Global Piping Solutions (GPS) 社は石油・ガス、石油化学、発電及び水処理などの産業で使用する特殊パイプ及びパイプ部品のメーカーである。同社が製造する高品質特殊パイプは、腐食しやすく摩耗の激しい環境に耐えられる品質を有している。GPSはピントン工業団地3内の面積約25,000㎡、土地面積75,664㎡のTICON工場を賃借した。ピントン工業団地はタイ最大の港であるレムチャバン港に隣接しており、大規模な国際的プロジェクトを推進する上で戦略的な場所に位置している。



Itoh Precision (Thailand) Co., Ltd.

イトー・プレジジョン(タイランド)株式会社はハードディスクドライブ及び電気電子部品の製造を専門とする会社である。同社は現在、アユタヤのロジャナ工業団地で1,200㎡の工場を賃借しているが、ビジネスの拡大のため、最近TICONの工場(面積1,200㎡)を追加賃借した。



DHL Supply Chain (Thailand) Ltd.

様々な産業分野の物流問題に解決策を提供する世界的な市場リーダーであるDHLサプライチェーン株式会社は、より高度な顧客の要求を満たすため、TPARKバンブリ2の倉庫(面積6,552㎡)を追加賃借し、タイにおける足跡を更に大きくした。現在同社はバンナとバンブリ地区において合計約12万㎡のTPARK倉庫を賃借しているが、タイにおける継続的なビジネスの成長を支えるため、5,000万ユーロ(約70億円)を投資する計画である。



Central Watsons Co., Ltd.

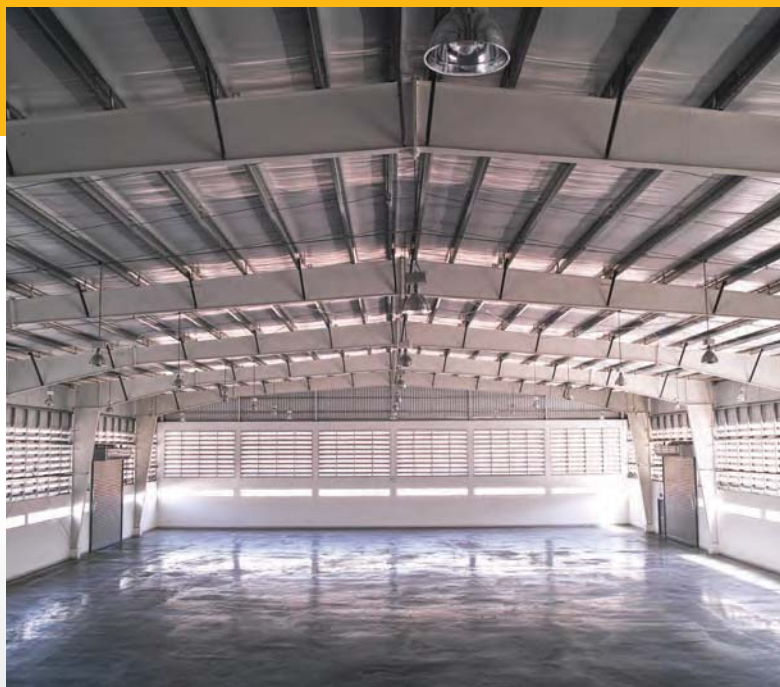
セントラル・ワトソンズ社はアジアの代表的な健康・美容製品の小売会社で、現在中国(本土、香港、台湾及びマカオ)、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、韓国、インドネシア、トルコ、ウクライナなどを含むアジア及びヨーロッパの12カ国において4,000を超える店舗を展開している。同社は健康・美容市場のニーズに対応するため、その製品の保管倉庫としてTPARKバンブリ1の倉庫(16,236㎡)を賃借した。

読者の皆さん、今日は、Forward誌の新しいコラムをご紹介します。このコラムは工場と倉庫を詳しくご紹介するもので、最初の回であるこの号では、自動車と電子産業の製造会社の近くに位置し、バンコクとスワンブーム空港にも近く、戦略拠点と考えられているサムートプラカン県のアジア工業団地(スワンブーム)をご紹介します。現在開発中のこの団地の第1フェーズは今年第3四半期にオープンします。

次にご紹介したいのは、自動車産業や電子産業に適しているプラチンブリ県のカピンブリ工業ゾーンです。TICON は現在、第1フェーズとして総面積20,000平米の即入居可能工場の提供を始めています。

ロジャナ工業団地(プラチンブリ)はプラチンブリ県にあり、多彩な種類の産業の拡張のための戦略拠点です。2014年中に第1フェーズの即入居可能工場のサービスが開始されます。

これら3カ所の新立地で即入居可能な工場を開設する他、アユタヤ周辺で工場が息を吹き返す気配があります。アユタヤ県内の工業団地は洪水を防ぐための堤防を建設済みであり、企業はこの地域で投資する自信を取り戻していることによるものです。 ■



詳しい情報または見学をご希望の方は下記にご連絡下さい。



電話: +66 (0) 2679 6569
Email: marketing@ticon.co.th
or info@ticon.co.th (Japanese)



Check
Available Buildings
here!



次は、高品質で即入居可能な、もっとも魅力的な場所にある TPARK シラチャを紹介したいと思います。この倉庫団地はアマタナコン工業団地とレムチャバン港の間にあり、製造業を発展させるため、物流会社にとって最適地ということが言えます。また、レムチャバン港を経由した輸出入貨物の配送センターとしても適地と言えます。このプロジェクトは現在、ほぼ60% (合計面積81,300平米) が完成し、2014年中に更に55,000平米の倉庫を建設します。 ■

詳しい情報または見学をご希望の方は下記にご連絡下さい。



電話: +66 (0) 86342 9669
Email: logistics@ticon.co.th



Check
Available Buildings
here!



Mr. Samart Rasmeerojwong

Chief of Investor Relations
TICON Industrial Connection Public
Company Limited

実りある利益のための投資戦略

今日、多くの人々にとって、金融面の強さと安定性を築く上で、投資が重要な役割を果たしていることは否定できない。投資は、リスクがつきものであるが、投資家が確実な利益を享受する機会を得るための手段でもある。利益を得る上でどの程度のリスクがあるかは投資の種類と期間によって変化する。

従って、投資家にとってはリスクの分散が重要となる。長期の投資を好み且つ日常の生計が投資以外の収入で賄える投資家は、投資期間が短く且つ他の方法で収入を得ることが出来ない投資家と比較して、より高い投資リスクに耐えることが出来る。但し、高い投資リスクに耐えられる投資家であっても、投資対象となる資産は1種類以上保有

し、また同じ資産でも複数のアイテムを持ち、こうした方法でリスク管理をするべきである。

世界最大の投資市場である米国では、大部分の人々が退職年金プラン(Retirement Plan)投資を行っている。彼らは投資信託や株式などさまざまなタイプの金融商品に投

資している。研究によれば、多くのアメリカの退職年金プランは7種類の金融商品投資を行っており、これが退職年金プラン全体の96%を占めているとのことである。

その他

混合型基金 (balanced funds)
期間限定型共同基金 (target date funds)
報酬固定型共同基金 (stable value funds)
金融市場債共同基金 (money funds)
株式投資 (stocks)
有価証券共同基金 (bond funds)
株式投資共同基金 (equity funds)

退職年金プランの目的は長期投資であり、投資家に確実な利益をもたらすことを目指している。従って、多くの年金プランは望む利益をもたらす可能性がある株式投資ファンド(Equity Fund)への投資を好むが、同時にリスクが小さく、従って当然のことながら利益も低い他の金融商品への投資も行って、リスクを軽減させることもしている。Equity Fundは投資を複数の株式に分散させることによって投資リスクを管理している。

適切な投資期間と投資の分散が確実な利益を得るための正しい投資の仕方である。■





Dr. Vatcharapol Sukhotu

Professor of School of Logistics and Supply Chain Management,
Naresuan University
Advisor to North Star Logistics
Contact: vsukhotu@aggienetwork.com

近代的通商 ビジネスにおける 配送 システム (Primary Distribution System)



本稿はTICONが発行する“Forward”誌への初めての寄稿であり、まずは読者の皆様にご挨拶を申し上げたいと存じます。物流業と小売業に従事していた私自身の経歴に基づいて、例えばTesco・ロータス、ビッグC、セブンイレブンなどが行っているいわゆる近代的

通商ビジネス (Modern Trade Business) のための配送システムに焦点を当ててご説明したいと存じます。こうした小売業者は、その店舗網の拡大に伴って、タイ国内の配送センター経由の配送を行っています。理由はこのようなシステムの導入は再配送コストを大幅に削減することを可能にするからです。例えば、小さなサイズの製品を作っている中規模の製造会社が、その製品を何百もある小売業者の各店舗に配送することを要求され、且つ製品がピックアップトラックを満載にすることすらできないとなれば、そのコストは高くなります。つまり、こうしたケースでは物流コストが高くなり、それは必然的に製品コストに跳ね返ってきます。しかし、配送センターがあれば、こうした製造業者は配送センターにその製品を納入し、センターからは他の供給業者からの荷物も運ぶトラックと一緒に積まれてすべての店舗に再配送されます。その結果配送及び再配送の両面でコストを抑えることが可能になります。

一般的に製造会社は、その製品を自身で或いは外部業者に委託するかして、小売業者の配送センターに運ぶ責任があります。しかし、これは大型トラックを満たすだけのボリュームがなければ非効率です。そこで、プライマリー配送システムを選択する小売業者が出てきます。これは小売業者自身が様々な製造業者からの荷物を集めて配送センターに持ち込み、それによって物流コスト及びサプライチェーンと小売業者間のコストを削減するというシステムです。2006年にICMRが実施したTesco Supply Chain

Management Practicesというケーススタディがあります。この結論は、イギリスのTescoが開発したプライマリー配送システムでは、配送センターにおける配送時間の正確性が14%向上し、それが在庫減少につながり、製造業者の配送コストが下がった結果、コスト削減による利益向上につながったということです。

タイではTesco Lotusが2013年12月、プライマリー配送システムを開発し、最初の地域配送センターをコンケンでスタートさせました。その戦略は、在庫は配送センターに集積し、店舗の在庫を削減して最大の販売実績を上げるためのスペースを確保し、店舗の需要に即応して在庫商品を配送する態勢を整えるというものでした。地域配送センターの運営は、バンコク及びその近郊の商品供給業者の多くは自分達の商品を他県に配送する能力を持っていない、また自分達の商品だけでは大型トラックを満たすことができないため地方配送をすればコストが嵩む、そういう状況への挑戦でした。プライマリー配送システムは、配送と物流のコストを削減するため、ミルクラントラックがこうした供給業者から荷物を集めて配送センター或いは統合センターに荷物を運び、供給業者の効率を上昇させる結果につながりました。

プライマリー配送システムはサプライチェーンを構成する様々な会社が協力する形態です。上記のケースを例にとれば、サプライチェーンコストを削減し、実績 (特に時間の正確性) を向上させるための小売業者と商品供給業者間の協力で、これがまさにサプライチェーンマネジメントです。私見ですが、プライマリー配送システムがより多くの近代的な通商ビジネスや伝統的な通商業者にも採用されれば、製品コストは下がり、サプライチェーンに関与するすべての関係者にとってウィンウィン (ともに利益になる) の結果をもたらし、最終的には消費者の利益にもつながると考えます。■

レストラン ロムチョーイ(そよ風)

2014年、新年おめでとうございます。FORWARD誌 は本年も皆様の幸せの成就と仕事の繁栄をお祈りいたします。またこれからも、各号でおいしいレストランを探求しご紹介してまいります。私どもがご紹介したレストランでお食事された皆様、良かった点、悪かった点など、お聞かせください。また、皆様が推奨されるレストランや名物店がございましたら、編集部までお知らせください。

今回、Take a Breakでは、TPARK バンブリ-1及びTPARKバンブリ-3近くのバンナ道路18kmに近いテパラック通りのレストラン「ロムチョーイ(そよ風)」をご紹介します。その名に相応しく、このレストランは涼風を受ける場所に立つオープンエアスタイルのお店です。名物料理はペッパロー(壺に入ったアヒルのシチュー)です。グレーピーソースの濃厚なシチューにどっぷり漬かっているアヒル肉は付け合わせのアヒルの血のゼリーとよく合っています。次にお奨めするのはホイジョー(カリッとした海老春巻き)、Pla Neua On Tod Kratiem(ニンニク揚げ魚)は外はカリカリに揚げられ、魚肉は柔らかく、魚全部が食べられます。また、Tom Yum Pla Kao Fai(魚肉入りの辛いトムヤムスープ)も絶品です。

上記の料理ではまだ物足りないという場合、FORWARDチームとして、Hor Mok(カレーペースト味の蒸し魚)、Pla Kao Pud Cha(ハーブと香辛料つきの揚げ魚)、Giem Chai Gra Poh Moo(豚の炒め胃袋、塩漬けレタスつき)、Broccoli Pud Kung(海老入り炒めブロッコリ)、Pla Muek Pud Prik Gang(いかのカレーソース炒め)などの美味しいメニューをご紹介しますと思います。

「ロムチョーイ(そよ風)」には、甘味メニューも豊富にあります。中でも外せないのが、オレンジケーキ、チョコレートケーキ、タイ紅茶ケーキなどのホームメイドのケーキです。

営業時間は月曜日から土曜日までの11:00-17:00です。 ■

味 ★★★★★
値段 ★★★★★
雰囲気 ★★★★★

レストラン ロムチョーイ(そよ風)

営業時間: 月曜日 - 土曜日 11:00-17:00

場所: TPARKバンブリ-1とTPARKバンブリ-3プロジェクトの近く。

住所: 〒10540サムットプラカーン県バンブリ郡バンブラー市ターパラック通り第9村34/10

電話番号: 0-2315-4568



☐ 使用可能 ☒ 使用不可



15 INDUSTRIAL ESTATES/PARKS



*Fast, Simple, Flexible, Efficient way
to manufacture in Thailand.*

TICON

FACTORIES FOR RENT

Contact us:

Tel: +66 (0) 2679 6565

Email: marketing@ticon.co.th

info@ticon.co.th (Japanese)

www.ticon.co.th

29 LOCATIONS TOTAL 1.3 MILLION SQ M



Right warehouses... Winning Locations

TPARK

WAREHOUSES FOR RENT

Contact us:

Tel: +66 (0) 86342 9669

Email: logistics@ticon.co.th

www.ticon.co.th